

7月9日（金）県立安曇川高等学校を訪問しました！

対談テーマ

これからの魅力ある高等学校づくりについて

本年度から総合学科5系列に改編された安曇川高校の特色ある学びの取組を視察し、これからの魅力ある県立高等学校づくりについて対談しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員 石井 太 委員

県立安曇川高等学校について

2021年4月から、5つの系列（「総合ビジネス」「情報ビジネス」「アーキテクト」「ロボティクス」「ライフサポート」）から、自分の興味・関心や進路希望に応じて学べる総合学科の学校として新しく生まれ変わりました。「まちがまるごと学びの場である」という考えのもと、高島市内で活躍する方や企業を講師として迎え、体験的な活動や講話から学ぶ「あどまちゼミ」を行っています。また、自分を鍛え、仲間と楽しむ多彩な学校行事や部活動も盛んに行われています。



意見交換より

委員：5系列への改編をうけ、教員には専門分野の新しい知見や知識が要求されているのか。

学校：生徒が主体的に学ぶ授業スタイルを目指し、授業改善を第一に取り組んでいる。ICT機器を活用した授業を増やしている。

委員：例えば学校を会社と見立て、系列を越えたプロジェクトチームのような取組は考えられないか。

学校：地域課題解決の一環として、近隣の新旭養護学校のリヤカーの修繕に、複数の系列が連携して横断的に取り組んだ。生徒に活躍の場があり、取組の意義を理解し、自分が何かの役に立っていることを感じながら学べるように取り組んでいる。

委員：学習内容を通じて何を学んでもらうかが重要。企業経験者など専門人材の活用や、地域の支援なども得ながら、学習内容の工夫に取り組んではどうか。

学校：生徒が資格取得に励むのも良いことだが、学びから得る自己有用感等を大切にしたい。地域との連携促進については、コーディネーターのような人材がいれば助かる。

